

第五回関東地区自然保護交流会

自然保護委員会

会期 平成 28 年 10 月 1 日（土）～2 日（日）（1 泊 2 日）

場所 千葉県南房総市岩井海岸（民宿次郎吉） 鋸山

主管 千葉県山岳連盟自然保護委員会

参加 46 名（茨城 5、栃木 7、群馬 1、埼玉 6、千葉 13、東京 9、神奈川 3、山梨 1、長野 1）

概要 関東地区山岳連盟に加え、長野県山岳協会所属の自然保護常任委員の参加を加え、千葉県南房総市での開催となった。第一日目は全員集会、第二日目はとして 3 グループに分かれ南房総の霊峰の鋸山にエクスカーションを行った。

第一日目は午後二時から民宿「治郎吉」のミーティングルームで、開会式・参加者自己紹介・各団体活動発表が夕刻まで行われた。開会式では、松隈委員長から第五回目の交流会を迎え多くの参加を得たことに感謝を述べ、山岳自然保護の活動の更なる活性化に向け、互いを知り、磋琢磨の機会となることを期待すると主催の挨拶をした。また、主管の千葉県山岳連盟の岩崎喜司理事長から歓迎挨拶に加え、清澄山系のヤマヒル、イノシシやキョンの農林業被害、登山道の荒廃などを例に、千葉県での自然の衰退の状況が説明された。また、坂口三郎顧問から、日山協が東京五輪に向けて関心がそれに集中するなか、山岳自然保護を大切にすることも忘れてはならないとし、鋸山山系を会場に行われた昭和 48 年の千葉国体に審判長で訪れた当時のことを引き合いに出し、その後の時の流れで山岳環境の疲弊が進まぬように自然保護の活動を期待するとした。引き続き、参加者の夫々から自己紹介を兼ねた発言が行われ、翌日から入山予定となる「鋸山」の植生について、千葉県山岳連盟・濱田伸自然保護委員長を講師に 1 時間ほどのレクチャーが行われた。

（濱田レクチャーの概要）

鋸山は石材（房州石）の産地として、江戸時代末から明治時代にかけて産業化が進み、東京、横浜などを中心に首都圏で多量に使用され、昭和 60 年ころまで切り出しが行われた。鋸山の北西海岸沿いに露出する約 600～400 万年前の後期の地層とされ、海底にあった地層が、長いあいだ土地の変動や隆起し、表層の泥岩や砂岩が風雨などで流出し、中心にあった硬い凝灰岩が残ったとされる。一帯は南房総国定公園で、鋸山稜線部は第一種特別地域となっている。一帯に咲く花々をスライドで紹介した後、盗掘を逃れて、人手の届かない石切りの崖地で生育する希少植物に触れた。

その後、前月に開催した自然保護委委員総会での資料を参考に各団体の活動報告と討議が熱心に行われた。茨城からは、筑波山などでの年 2 回のクリーン活動を主軸に環境活動の取り組み、栃木からは栃木百名山登山を通しての啓発活動、群馬からは川場鉦山などの環境美化活動、埼玉からは日山協出前講座や県職を招聘しての学習会、東京都からは御前山環境活動を通してのトイレ意識調査、神奈川からは丹沢での植樹や森林ボランティアを通しての環境活動、山梨から南アルプスでの山岳レンジャー活動、長野からはライチョウサポーターへの参加を通しての生態調査を、それぞれ報告した。夕刻の懇親会では千葉県山岳連盟関口薫会長の発声で乾杯が行われ、それぞれが打ち解けたあったなか歓談が進んだ。

第二日目は千葉岳連から更に 4 名が加わって総勢 47 目にて鋸山登山となった。金谷海浜公園を出発し、関東ふれあいの道コース、沢コースの 2 コース、ロープウェイを使っての日本寺班 3 班に分かれて、鋸山登山となった。前日のレクチャーを思い出しながら、それぞれ 4 時間ほどの行程を楽しみ、13 時頃に金谷海浜公園に帰着し、最終メンバー確認をし、三々五々解散となった。（松隈記）



